



Title	國民社會の観点よりみた都市機能 第一巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1963-06-07
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77525">http://hdl.handle.net/2115/77525</a>
Type	manuscript
Note	『鈴木栄太郎著作集7(国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である(同書内での言及による)。
File Information	1029_0123S36.pdf



[Instructions for use](#)

NOTE BOOK

國民社會の觀察より4左

都市機能論

— 都市農村の機能論  
の考察 —

200字詰. 46枚  
(才 巻)

昭和二十六年一月九日

4

下り

（一）農村の振興

一、良社会の都市と村落の振興

二、日本良社会の最近数年の

急激な変革（主として農村の振興）

三、農村振興の振興の急変

四、将来の予測

五、農村の振興

六、農村の振興

七、農村の振興

八、農村の振興

九、農村の振興

十、農村の振興

十一、農村の振興



④ 若竹社に掛掛りありて先都事

のありてし。口裏長社とのつな

りは上級原の掛掛りとの一本の

交流路線の掛掛りとしてた

その一、<sup>政治や経済</sup>の掛掛り

流や文化の流の掛掛りとして

の掛掛りとしてたのり

⑤ 流の掛掛りとしてたのり

上から下へ流の掛掛りとしてたのり

と動いていよるを凝縮していた

日本文化をとりまき文の精一杯

たから、和の掛掛りも都事も共に

流と大流として、取掛り、掛掛り

年輩の掛掛りとしてたのり

休職するも掛掛りとしてたのり

及び掛掛りとしてたのり

機能の掛掛りとしてたのり

字の掛掛りとしてたのり

と元々、掛掛りとしてたのり

⑥ 流の掛掛りとしてたのり

と動いていよるを凝縮していた

今とては、掛掛りとしてたのり

⑤

私は口民社会に同意し私の考へを

表す。拙著「口民社会」は、口民社会の

基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

は、

私は口民社会に同意し私の考へを

表す。拙著「口民社会」は、口民社会の

基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会

の基礎を述べたものである。口民社会



政治の法則

① 何れもして大事なるは其の完結性

である。完結性は其の範疇が

最も善なる境界によつて即ち善なる区

劃され、それを見出し強化する

事は最も善い境界がある事である

である。 宜向の階層 此の階層

人々の善なる境界の線、口藉

我々の善なる集團への善なる

最もよく取扱つて、よきは善の境界

と口藉は、いかに敵と味方、死と

生との区劃線である。恐らく外

に其の善なる性の最も善なる

らや、其の善なる性の最も善なる

の善なる性である。 城壁である。

口藉と口藉は甚だしく厳しきれば

① 一の完結として

政治の善や価値体系が其の内に

平衡をいそめ、いそむる体系

である。 善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる

善なる善なる善なる善なる善なる





線に世界を一回くぐる。政治体制  
の転換の途程を思はしめよう。あつた。  
けりし。一かゝる年の転換世界の中  
の良記。左は。大それた。城壁の内  
に。政治的。政治的。心。心。心。心。心。  
的。的。的。的。的。的。的。的。的。的。  
して。して。して。して。して。して。して。して。して。して。  
新。新。新。新。新。新。新。新。新。新。  
才。才。才。才。才。才。才。才。才。才。  
今。今。今。今。今。今。今。今。今。今。  
業。業。業。業。業。業。業。業。業。業。  
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。

金  
\* 都市は中央の中心地として力を蓄積  
かゝりしれなく中央に集積しありし地方  
的構造としてを有しつ

産業時代の中心地から都市の中心

都市は中央の中心地として力を蓄積

政治や経済や文化が中央より

放射し及ぶ構造を有しつゝ大の中心

が、政治的経済的構造は

亦や口境の外に及んでいよ

口民生活は凡て原籍として

降すことばは指していよ

私は杜若の研究の中心地

を研究の中心地としていよ

の特殊な研究は一度完了す

と見てもいよ世界規模の特殊

研究の中心地としていよ

理

過去に於ては

① 良民の細腰に家族の道が

家族と良民の中間に

系族の道がある。此の突然、

機能をもつ系族の道が

口の中より家族に

都市大衆の道と

家族の集合になつて

見てもよい。かゝる

の中は操国が今日

のには地元の区々

鼓かの都市林林を

よて可観である。

様である。

口良民の道が一つの

もつていふは口の中

清の中程の道である

末端は純然の民の

口良民の内は口の中

中央より口の末端

活動を中心とした

支配の国は何れも

見るとは、漸進的

口の中は、口の中

口の中。今日



都市中心の機能論として、原則  
的に村落に経済的機能を加えるは  
それより村落は都市化となる。  
そんな結果、自然圏が一宮堂に  
加へた時は、人々の村落を都市  
と評ふ程になるとか、私の説明  
は丁度、自然の進行の上で当然認め  
らねばならぬ。けれども村落。  
中に経済的機能を加へると、  
丁度の進行が大部分をおさとし  
て、村落が都市が同時に発生  
す。よって、自然の進行は、  
す。よって、自然の進行は、



先づ右の如く予等は同じである。  
漢程としての体候が我々の時代の不  
況等は何等の關係にも何の關係にも  
場合が多し、下あり、古く漢程は作  
先國への我々の都市が在るよ、  
し、その漢程は我々の漢程の  
可なりが解せり、我々の都市は、  
我々の漢程は、我々の漢程は、  
結句、白、様、同、の、體、候、で、あ、る、  
漢程は、我々の漢程は、  
續、不、意、な、る、都、市、的、存、在、を、  
解、す、可、なり、な、る、。





後

かまう。けれども、後でい

うと、その生活に終焉する。人間の生活が、

命は、それより、それより、

終焉の瞬間が、それより、

彼が、それより、それより、

は人間の生活、それより、

ある、それより、それより、

常に人の生活、それより、

おぬ。職場と仮居の世間の同位

が、それより、

今日の新興、それより、

仮居、それより、それより、



決して

◎ 惣して日本人が近代化の精神を四半に

位まで進んで生れたら、何れの國の軍要を擔ぐ

活物 ほんまに

として進んだら、

上下の別がなくなり、

の精神が、

の精神が、

の精神が、

の精神が、

の精神が、

◎

模倣が先つて、

後に加はると、

成立も、

として、

の一ツの形と

日本人の在地

の原質を、

出来よ。

山のふもとに、

力を、

知せし、

政治と、

政治と、

政治と、

政治と、

政治と、

政治と、

政治と、

の上り成りである。大々たる  
治と経済の路線の接合の上で成り  
ます。経済と経済の活動の二の接  
合をいふ成りである。

急進的

スルヤチる





\* 企業界と職安と学校の協力  
体制は不明な形式  
を介して

世界経済の趨勢

中央にある。政治力と経済力を兼ね

組織の上で金と権力と又

権力や技術の二階建ての組織

中央の力は強大し地方は弱

す。支那を握るは組織の中心

大いなる経済の集中を要する

向うは打撃の度々ある日

政治力と実力との活動

と政治力との活動

と政治力との活動

と政治力との活動

と政治力との活動

と政治力との活動

と政治力との活動

と政治力との活動

と政治力との活動

と政治力との活動









要するに

現行の政体制度産業体制の在り

り中山部部配四新体制の在り

け但はたゞは今の体制は精々明

治大正時代の政体経済体制の在り

りものである。 部部表々への

何より口口是等協力の合股の在り

事の本構造力基礎の在り

なり。

是して貴族は様域成と共同化の

よって中央商名生産の企業体

とたゞ下ありなりは組合は新

いである。

中央の北満洲の支配の據と云

地と云としてその存在は他を予するに

ありの。

思や様 機械化の回し

下請 工場としての象が能くも

自然 習得の音

機械化共同化

中身 近代化は企業的主張化

又 商号 企業化は商業化

下 故に 企業化の結果は

激 均 大 小 あり 中 家 業 化

機 同 化 して あり 又 企業 業 化 工 場 化

池 田 有 限 公 司 池 田 有 限 公 司

い ち び 大 小 業 業 化 結 果 業 業 化

つ い て 考 へ て あり あり あり あり

保 守 業 業 化 業 業 化 業 業 化

物 質 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的

結 果 業 業 化 業 業 化 業 業 化

受 け て 業 業 化 業 業 化 業 業 化

在 業 業 化 業 業 化 業 業 化

在 業 業 化 業 業 化 業 業 化

出 果 業 業 化 業 業 化 業 業 化

中 業 業 化 業 業 化 業 業 化

機 同 業 業 化 業 業 化 業 業 化

結 果 業 業 化 業 業 化 業 業 化

業 業 化 業 業 化 業 業 化

業 業 化 業 業 化 業 業 化

業 業 化 業 業 化 業 業 化

中 十 都 市 区 漸 次 業 業 化

業 業 化 業 業 化 業 業 化

都市人の政治的意識の  
蒙るべきもの

都市人が著し得るべきもの  
都市人の政治的意識の

都市人の政治的意識の  
都市人の政治的意識の

都市人の政治的意識の  
都市人の政治的意識の

都市人の政治的意識の  
都市人の政治的意識の

都市人の政治的意識の  
都市人の政治的意識の

都市人の政治的意識の  
都市人の政治的意識の

都市人の政治的意識の  
都市人の政治的意識の

都市人の政治的意識の  
都市人の政治的意識の

一般

都市は東洋社会を特に結核  
機同の集積地としての東洋社会  
あつて、<sup>都市</sup>結核は結核の  
をその内、<sup>都市</sup>結核は結核の  
合である。村は結核の  
の結核は結核の結核の  
係する。結核は結核の  
都市一般に好す。同結核である。  
流は結核の結核の結核の  
の結核は結核の結核の  
同結核は結核の結核の  
を結核は結核の結核の  
見結核は結核の結核の

的都市

的都市

東京の場合

東京は中央に直結している。これはな  
い。東京は日本の中都市に直  
結している。

東京の機能を考へる場合、計  
は多岐にして、<sup>東京</sup>結核の  
東京は東京銀行は中都市の  
銀行を支配している。東京の本  
者は地方府物人を支配している。  
それ以下、<sup>東京</sup>結核は同結核の  
東京は東京銀行は中都市の  
に下請せられている。場合が多い。  
結核は経済の他の東京は  
その直轄下の階層を支配して  
いる。東京が中央を支配し  
る過すなり。









昔の城下町の散在の機關であつた藩

は藩政の私邸であつた藩の支配の中

わりの家が金部が極力な。家出の

の金部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

の代部が極力な。家出の

是れが兩者は未分化の状態であつた。

た。これとして今では機關不即ち職

場が家を支配し、職場の内型は

いゝ家族生活も完全な左右され

住居も職場の支配で、これに

交流路線は居住生活は機關に

いゝ居住され左の住居の中心は

交通路線は居住生活は機關に

故に都市の活力は居住生活は

故に都市の活力は居住生活は

故に都市の活力は居住生活は

故に都市の活力は居住生活は

故に都市の活力は居住生活は

故に都市の活力は居住生活は

④ 芝の

市内機関活動に

路線が塵に切水なくなつて、又  
路線の大改定があり、それによつて  
機関の新設置、次の何屋の取  
置かあす可なりである。

又路線改革の概況

此長い時代の周期毎にあつたもの  
思はれる。今春日本のもとの部  
市はその改革の時、来りて  
し、の午年北つて、また古の路線を  
とり、またたくなく、最近の生活大  
動の結果である。

要である。路線の整備のためは  
機関の整備も協力して、最も全路線  
路線を設け、日に力をつくす可なり  
である。

このしるべきかくして、古き路線に  
機関が整備され、その次に居候

か、整備の順序は、その次に居候  
設計と逆の順序である。路線の

機関が二居候の順序が中世  
的都市が、現在に既して改定され

「手順である」。

ア、ナリ、では、仲要か、こんな順序を

都市を構成する。三要素

一、機能

公共性あり

二、住居

公共性あり

三、交通路線

公共性あり

都市行政

形をとりながら都市環境は本々  
世のなかにあつた。都市行政。

東京の過大抑止方策

東京人の過大抑止方策

今日では機国が人の生活を支配する

ので、抑止を整理するものは機国に

目をつけ機国を増減する。すなわち

自か一人もその地位を増減する

を器用では多くの派兵を同意する

利にたすは毒に似て機元后の機

国の中何を増減するかは合戦の

順序の確信は機元后の仕事である

意をかし増減せざる機国は何である

か。それもししと入つて考慮する

の可視性の形も知れぬ

を合戦的に決定す

